

SUPER SPORTS CARS

新スーパースポーツの実力

アストンマーティン新型ヴァンテージ登場

ランボルギーニ・ウラカン・ペルフォルマンテ／マクラーレン720S／ポルシェ911GT3

ポルシェ・ミッションE & 911GT2 RS初試乗

ランボルギーニ・ウルス詳細

アルピーヌA110／ロータス・エヴォーラGT430

チューンド・ポルシェ in FSW
東京モーターショーを振り返る
スペシャルショップ全国版

特別付録 小冊子
「ASTON MARTIN」





ディアブロSE30に採用されたバイオレットカラーをモチーフとした新調な色合いに、ハイパーフォージド「HF-DiC」の輝き加え、純正のカーボンパッケージに加え、プロコンボジット製のカーボンリヤウイングが施される。

ロック仕上がり可能なので、LP7504SVに組み合わせても似合いそう。今回、装着されたサイズはフロント9・5J×20インチ、リヤ13・5J×21インチ。それぞれ255/30、355/25のピレリPゼロが組み合わされていた。つまりはリム幅がそれぞれ0・5J拡張されただけで、タイヤを詰めて純正と同サイズとなる。

その理由として、やみくもにインチアップに頼らずに存在感を高めようとする意識がひとつ。さらにアヴェンタドールSから初採用された後輪駆動システムの影響も無視できない。低速時には逆位相に最大3度、高速時には最大1・5度の自動ステアを行う、この機構を見越して、リヤフェンダーとタイヤとのクリアランスを検討しなければならぬ。一筋縄ではいかない。この條件はファースト製アジャスタブルロッドによって車高が落とされているだけに、なかなかに条件はキツくなる。

ディスクの仕上げは3Dブラッシュ仕上げだった。複雑なスポーク面のうち、サイド部分のみをポリッシュ仕上げとして、眩惑らしい質感を演出させて、適度な輝きを放たせるなど、ディテールは凝りに凝っている。そこを調和させるようにアウターリムをハイポリッシュとして浮き立たせ、逆にインナーリムをアナダイズブラックとして沈ませた。結果として深みになりすぎずに、しっかりと主張してくるような存在感を得た。持ち前のアシンメトリー・デザインと相まって、走っているだけでも止まっているよりも美しいと感じさせる。

この原点のコーディネートが、ランボルギーニ30周年の際に登場した記念作ディアブロSE30をオマージュした、バイオレットカラーと見事なまでに調和する。ディアブロSE30を彷彿とさせる巨大なリヤウイングは、プロコンボジット製の新作だ。ほしくボディを離らせるバイオレットカラーと、さりげなくその性能を暗示するカーボンリヤウイングがホイールをより引き立てる。

ポディメイクやホイールを始めとした今回のパッケージを紡ぎ上げたのは、気鋭の輸入車販売店であるオートプラザダンクである。ランボルギーニに限らず、あらゆるスーパーカーとハイパーフォージドとを、さらには国産アフターパーツベンダーとも調和させてきた彼らだけに、アヴェンタドールSに対しての仕上げも自信と誇りが感じられる。カラーリングに見られるような純正をリスペクトしながらも、日本の技術で一歩ずつ進めようとするモダンランボルギーニの世界は面白い。その世界を構築するキーデバイスこそが、ハイパーフォージドの自在な設定力と、比類なき性能である。

PARTS LIST	
ホイール(9.5J×20)	127,000円～187,000円
ホイール(13.5J×21)	147,000円～227,000円
ホイール(9.5J×20) 810V1-スリム	177,000円～247,000円
ホイール(13.5J×21)	227,000円～247,000円

※税別価格



左右非対称(アシンメトリー)デザインが特徴のHF-DiC。流れるようなバターンに一切の細は無く、ポルトホールと穴の配置や、大径ブレーキとのクリアランスを見るだけで忘れ難い。作り手側のオートプラザダンクとハイパーフォージドとのチームプレーによる、きめ細かい仕上がりも見逃せないポイントだ。



HYPER FORGED HF-DiC for Lamborghini Aventador S

黄昏時のすみれ色に宿る
アシンメトリーの色気

2017年4月に日本での発売を開始したアヴェンタドールSが、着々と日本の路上に輝き放たれている。LP700-4に比べて外装の一部を改良して徹底的に空力が削減され、またエンジンも最高出力740馬力まで増強された超絶傑作だ。それを象徴するところなく受け止める足まわりなどを含め、進化の内幕は多岐にわたる。この新しいスタイリングは次世代への象徴を担うと同時に、往年のクンタッチを彷彿とさ

せるリヤホイールアーチのデザインが取り入れられたりもしていて、好き嫌いのツボを心得ているようだ。すでに各方面で稱賛されている通り、究極な性能を持つアヴェンタドールSだからこそ、そこに至る加えることは難しい。カスタムの第一歩であるアフターホイールからして厄介だ。下半分アフター品では本刀打ちできないほど純正ホイールが美しく、さらに強大な出力性能を受け止めるタフさも要求される。

その高い山へ挑んだのが、国産超絶傑作を武器としてオートクチュール体制でホイールを仕上げてきたハイパーフォージドだった。彼らのラインナップのうち、最新作に相応するHF-DiCを、アヴェンタドールSに持ち込んだのだ。

HF-DiCは、ハイパーフォージドとしては初の試みである左右非対称「アシンメトリー」デザインを採用した傑作だ。左右ホイールの互換性をいさぎよく捨てることで、進行側に向かってホイールが傾く、流れるようなデザインを表現した。作り手側としては生産効率が高まるうえ、ユーザーにとっても左右のローテーションが不可能となるなどデメリットは確かにある。しかし、それでもこの球根像を追求しようとする意志は、たまたま姿を見ただけで無量の脱力感を覚える。

HF-DiCは他のラインナップと同様に、19・22インチの幅間で、PCDやインセット、仕上げを自在に設定することが可能となる。ランボルギーニの世界で言えば、センター

Built to inspire

Innovative design and high standard defines HYPERFORGED WHEELS.
Nothing is compromised in the making of these highquality wheels and it shows.
Travel in style with HYPERFORGED.



HYPER FORGED HF-DiC[®]
Disk finish:3D[®]Brushed Rim outer finish:HighPolish Rim inner finish:Anodized Black
12 Point Stainless Bolt Classical
F:9.5J×20 SemiConcave R:13.5J×21 DeepConcave
Pirelli P-Zero L F:255/30/20 R:355/25/21
Lamborghini Aventador LP740S

Special thanks :  www.ap-dank.com  www.pro-composite.jp

▶ DiC concave
NEW



19" 20" 21" 22" ▶ The RIM:Reverse

▶ LC5 concave



19" 20" 21" 22" ▶ The RIM:Reverse

▶ LC5 Centerlock



19" 20" 21" 22" ▶ The RIM:Reverse

▶ C5.2 concave



20" 21" 22" ▶ The RIM:Step

▶ C7 concave



19" 20" 21" 22" 24" ▶ The RIM:Reverse

▶ C10 concave



19" 20" 21" 22" ▶ The RIM:Reverse

▶ 24S



19" 20" ▶ The RIM:Reverse

▶ 27S



19" 20" ▶ The RIM:Reverse

▶ 25S



19" 20" ▶ The RIM:Reverse

▶ 105R



19" 20" 22" ▶ The RIM:Reverse

▶ 109R



19" 20" ▶ The RIM:Reverse